



～2025-26年度主題～

- 国際会長 エドワード・オン (SG) “Faith, Love, Action”
- アジア太平洋地域会長 田上 正 (熊本むさしC) “信念と愛をもって行動しよう！”
- 東日本区理事 山下 真 (十勝C) “ワイズらしさ再発見”
- かながわ部長 兵藤 芳朗 (鎌倉C) “共に歩み 交流を深め、部の「絆」を強めよう”
- クラブ会長 坂口 直樹 “お互いを理解し誰かの役に立つ！”

今月の聖句

今までは、あなたがたは私の名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。

ヨハネによる福音書16章24節

4月の本例会

日時 4月24日(金)17:30～

場所 かけはし都筑

司会 坂口直樹 報告 鈴木茂

～議事～

- 1. 開会点鐘 会長
- 2. ワイズソング・信条唱和 全員
- 3. 今月の聖句・祈祷 担当主事
- 4. 会長挨拶 会長
- 5. ゲスト・ビジター紹介
- 6. 卓話 田中 博之さん
「今そしてこれからの私たち」
- 7. 協議事項・行事予定
- 8. Happy Birthday
・鈴木恭子さん(4/9)
・福島佐代子さん(4/17)
- 9. スマイル・アピール
- 10. 閉会点鐘 会長

※終了後会食予定

《巻頭メッセージ》

森山 真治



イースターおめでとうございます。
主の復活の喜びと平安が、皆さまの上に豊かにありますように。
4月から大谷翔平選手の活躍が連日報道されています。漫画の主人公のような活躍です。

先日、私は『リッキー・ヒル 奇跡のホームラン』という映画を観ました。

リッキー・ヒルは、1975年にモントリオール・エキスポズと契約し、エキスポズのファーム制度で4年間プレーした実在の選手です。牧師の父親を持つリッキー・ヒルがメジャーリーガーになるまでの話で、私が野球好きだということもありますが、キリスト教とスポーツを感じる作品は、YMCAの活動とも重なるような気持ちで観ました。

フィリピの信徒への手紙4章13節(新共同訳)

「わたしを強めてくださる方のおかげで、わたしにはすべてが可能です。」

映画の中で、リッキー・ヒルが語った言葉です。

リッキー・ヒル(以下リッキー)は重い脊椎の病気という大きな困難を抱え、脚が不自由ながらも、メジャーリーガーへの夢をあきらめずに、父の反対や度重なる挫折の中でも、痛みを耐え、努力を積み重ね続け、目標に向かって走り続ける様子が描かれていました。大きな試練の中で、リッキーは決して自分の力だけで挑戦したわけではありませんでした。

リッキーが、メジャーリーガーのトライアウトを受ける前日、不安な中で教会に行き、神様に祈り、自分と向き合いました。その中で、父親への理解と愛に気がつきました。神様に祈り、支えを求めると、自分の弱さを受け入れながらも前に進む力が与えられました。

また、リッキーが所属していた少年野球の監督は様々な場面でリッキーをサポートし続けていました。リッキーの少年野球への入団、メジャーリーガーのトライアウトの情報、スカウトの方への紹介など。リッキーが自分自身の力だけでなく、人との縁によって道が開かれていく姿が印象的でした。

自分の力だけでは乗り越えられないことも、神様に支えられ、人に支えられることで道が開かれていくのだということを感じました。

YMCAの活動においても、子どもたち一人ひとりが自分の限界を感じる場面があると思います。しかし、その中でも神様、仲間や指導者の支えを感じることで、「できるはずがない」と思っていたことにも挑戦する気持ちになるように、これからも子ども達を支えていきたいと思っています。(以上)

クラブ役員一覧

- 会長 坂口 直樹
- 副会長 今城 高之
- 書記 今城 宏子
- 会計 鈴木 茂
- 直前会長 鈴木 茂
- 監事 辻 剛

3月のデータ



例会出席	10名	在籍会員数	16名
メンバー	10名	月間出席者数	10名
ビジター	—	メ・キャップ	1名
ゲスト	—	月間出席率	68%

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《例会報告》 3月度本例会

森山 真治 記

日時 3月27日(金) 17:30～
 場所 夢Cafe
 出席 今城H・T、エスキルドセン、坂口、
 鈴木K・S、三木、(Zoom)辻T・Ts、森山
 司会 今城H、記録：森山

～議事～

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・信条唱和 一同
3. 今月の聖句・祈禱
 ヨハネによる福音書 15章12節
 ・国際・地域協力募金として街頭募金を2回行い、合計15,252円が集まり、活動の成果を実感しました。
 ・保護者の方が率先して協力し声を上げる姿が子どもたちの模範となり、行動を通して学ぶ姿が見られた。
 ・「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ15:12)の聖句の通り、愛は行動で示され、地域へ広がることが期待したい。
4. 会長挨拶 会長
 ・世界で争いごとが続いていることが心配である。
 ・桜の季節となり、温かくなってきました。元気に活動をして参りましょう。
5. 自由討議(お弁当をとりながら・・・)
 ・フリーディスカッションでは、会員増強・クラブ活動・懇親と成長・財政の健全化について意見交換を行った。
 ・会員増強では高齢化と人数の減少が課題として挙げられ、候補者リストの作成や積極的な声かけ、パンフレットの作成やSNSの活用などが提案された。
 ・コンサートをきっかけに入会した事例や、外部参加型のプログラムづくりの重要性も示された。
 ・定年後の居場所や奉仕活動の提供、ボランティア活動の伝え方も論点となった。
 ・クラブ活動ではYou&コンサートを軸に外部との協働や移動講義などの提案があった。

- ・懇親と成長では傾聴をテーマとした研修やセミナーの実施が提案された。
- ・財政面では会員増強と活動の活性化が基盤強化につながるとの認識が共有された。

6. 各種報告

- ・みやま荘、つばめの杜保育所園長からのメッセージが紹介され、お誕生日カードの継続が確認された。
- ・20周年記念例会は3月28日に70名へ案内を配信し、申込は4月30日までとする。卓話はロブ先生が担当される。
- ・3月14日・15日に東山荘で開催された次期会長・部役員研修会には坂口さん、今城さんが参加した。会員増強は東日本区の重要テーマであり、ユース世代との交流不足が課題として共有された。

※辻孝子さんの誕生日をお祝いし、閉会点鐘をもって例会を閉会した。 (以上)



ZOOMも駆使して、できるだけ大勢の会員が参加できる例会を目指します。



《TKB便り》

4月のお誕生カードはイースターにちなんで“ひよこ”の折り紙とイースターエッグの絵柄。いつも折り紙を担当して下さる林ひろ子さん(田園都筑教会)のアイデアは尽きることなく、その折方のていねいさも驚くばかり。

新しい年度に入り、各施設の月別誕生者人数も早速インプットして頂きました。このところカード作りの参加者が少なく少し寂しいです！皆さんが元気になって、顔を出してくださるのを心待ちにしています。まずは、お一人お一人の上に主のお癒しをおいのりしています！

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

横浜北YMCAオルタナティブ事業では、4月から放課後等デイサービスを開所いたしました。これまで幼児を対象とした福祉サービスとして、児童発達支援の事業を行ってきましたが、それに加えて小学生から高校生を対象にした放課後等デイサービスを行うことといたしました。定員は50名ですが、現在40名ほどの方がお申込みをしてくださっています。これまで長年トライアングルクラスで積み上げてきたノウハウを、放課後等デイサービスにも引き継いでクラスをおこなってまいります。クラスでは、これまでトライアングルクラスでおこなってきたように、YMCA独自のプリントを使った、基礎学力の定着や、対人関係のスキルを身に着けるための学習時間と、ゲームやトークをして実際に同世代の仲間と関わる中でソーシャルスキルを身に着けていけるようにする時間を持ちます。ひとりひとりの子どもたちが、集団生活の中でよりよく過ごしていけるようにサポートをしていきます。放課後等デイサービスを利用される方々には、健康教育部のプールや体操に通っている子どもたちも多く、健康教育部のスタッフとも連携をとっていきたくと考えています。様々なプログラムで共通の認識を持って子どもたちをサポートできることは、YMCAの大きな強みです。特性のある子どもたちにとってはとくに、どのような場面でも、同じような関わりをすることが大切で、そのことがクラスに安心して、そして落ち着いて参加することにもつながり、

子どもたちが“できた”と思える場面を増やすことができるのではないかと思います。新しいクラスに慣れるまで時間のかかる子どもたちも多くいると思いますが、あせらず長い目で子どもたちの成長を保護者のみなさまと共に見守っていきたいと思います。定員にもまだ少し空きがありますので、引き続き必要な方に情報が届くように努めてまいります。



横浜北YMCA
〒222-0011
横浜市港北区菊名6-13-57
Tel 045-433-4321 Fax 045-432-697

《事務例会報告》

日時：2026年4月14日(火) 17:30～

場所：夢Café(一部Zoom参加)

出席者：坂口(会長)、今城T、今城H、大野、鈴木K、鈴木S、森山 (Zoom)辻Ta、辻Ts

1. 協議事項

(1) つづきクラブ設立20周年記念会(6月20日開催)について実行委員長(鈴木S)より進捗報告があり、詳細について意見交換を行いました。

- 進行担当：第1部：今城H / 第2部：鈴木S / 第3部：今城T
- 会場・設営他：レイアウトおよびケーターリング内容等は、4月末の申し込み締め切り後に最終決定する。
- 来賓ご祝辞：欠席予定の来賓2名については、祝辞原稿を頂き代読形式とする。
- 卓話：エスキルドセン・ワイズ氏に決定。
- 聖句・祈祷：相賀先生に依頼済み。
- 演奏会：演者4名に対し、持ち時間を各5分以内として依頼する。

(2) 外部行事の出席者確認

- かながわ部合同交流会(5/16)：坂口、鈴木S
- 横浜北Y-ワイズ懇親会(5/23)：今城H、今城T、坂口、鈴木S

(3) 3月例会フリーディスカッションの総括

- 例会で強調された「会員増強」について、具体的な進め方の議論を今後さらに深めていくことを確認した。

2. 今後の行事予定

- TKB(夢カフェ 13:30～)：4月15日(水)、5月20日(水)
- 4月本例会：4月24日(金) 17:30～ @かけはし都筑
- 卓話：田中博之様(他クラブからの参加申し込みあり)
- 5月本例会：5月23日(土) 16:00～ @横浜北YMCA 205教室
- 第110回 Y-Y協議会：6月2日(火) @中央YMCA (当クラブが司会を担当)
- 東日本区大会(石巻)：6月6日(土)～7日(日)
- 出席予定：今城T、今城H、坂口、鈴木S
- 7日に「みやま荘」「つばめの杜保育所」を訪問予定。
- 6月事務例会：6月9日(火) 17:30～ @夢カフェ
- 20周年記念例会：6月20日(土) 14:00～ @横浜北YMCA

3. You & Iコンサート開催支援の横浜YMCA支援金(チャリラン支援金)が振り込まれたことを確認。

4. 会長の点鐘で閉会し、有志で会食を行う。

以上 今城T 記

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《緊急報告》 火事に遭われたウクライナ避難民

3月、東京に桜の開花宣言が出て、待ちに待った暖かい春になりました。

しかし2026年1月には木枯らしが吹き荒れる真夜中に都筑区の集合住宅の4階から火事が出て何世帯かが焼け出されてしまった悲しい事件を耳にしました。更に焼け出されたのがウクライナ人の数家族だったと聞いて、私達【つづきクラブ】が2年前に手編みのマフラーや帽子を100枚以上集めて、横浜市のウクライナ避難民の方々にプレゼントした経緯を思い出し、もしかして災害に遭われたのはその中のどなたかかもしれない私は胸が締め付けられる思いになりました。

火事から1か月以上経った時でしたが、まだ何かお手伝いできることがあるかもしれないと、横浜市国際支援協会に問い合わせをしました。そして何が必要か国際交流協会を通してお聞きして、クラブのメンバーにご相談するとすぐに「自分たちに来ることをしよう！」との快諾を得ました。

当事者直接ではありませんでしたが、今現在欲しいものリストが来ました。一番はパソコンで、あとはキッチン用品の鍋やフライパン、フォーク、スプーン、コップ、お皿等。他にリネン類や、家族のベッドが足りないので布団等が欲しいとのことでしたが、それらは寝具を除いてあっという間に集まりました。どれも各家で眠っていた品々でしたが、やっと世の中で役に立つ時が来ました。

坂口会長と私で向かった受け渡しの当日に来られた男女二人のウクライナ人は、英語も日本語も分からないらしく、お互い携帯の翻訳機能を駆使しての会話になりました。今は仮設住宅に住まわれている由。「横浜市に来て3年経つが、すべて焼けてしまったのでとても嬉しい」と大変喜んで下さいました。

今回、小さな活動でしたが、「私たちはウクライナの方をいつ

も覚えていますよ。苦難ばかりでお気の毒ですが、早く平和が来ることを祈っています。」というメッセージは伝えられました。これからはもっとダイレクトに交流出来たらいいなと思います。最後にお二人が日本語で『アリガト』と言って下さり、お互い温かく幸せな気持ちで「また会いましょう」と手を振り合い別れてきました。

大野君枝 記



(上) 集まった調理用具類
(右) 大変喜んでいました
きまされた衣類

《寄稿》

沼津に先達の足跡を訪ねる

今城 高之

春が深まってきた4月初め、沼津市の郊外に写真アトリエを構える息子の友人を訪ねることになり、久しぶりの親子三人旅に出かけました。

あちこち案内していただいた場所の一つに、沼津市の「江原素六記念館」がありました。素六翁が案内の主である息子の友人のご先祖様にあたるということもありましたが、幕末から明治初頭の激動の時代をキリスト者として生きたその生き様に、私自身が大いに関心を抱いていたことが訪問の決め手となりました。

素六翁は天保13年(1842年)、幕臣の長男として江戸に生まれました。23歳で長州征伐に従軍し、鳥羽・伏見の戦いで敗走を経験。江戸城無血開城に際しては脱走して下総で官軍と戦うも敗れ、その後、徳川宗家に従って駿河へと移住します。

明治元年(1868年)、素六翁は旧沼津城内に「沼津兵学校」を創設。その2年後の1871年には岩倉使節団の一員として渡米します。米国でキリスト教に接した素六翁は、静岡学問所で教鞭を執っていたカナダ人宣教師、デイヴィッド・マクドナルドらとの交流を通してその人格と教えに触れ、1877年(明治10年)、マクドナルドから洗礼を受けました。まだキリスト教への偏見が根強かった当時、旧幕臣のリーダー的存在であった彼が受洗したことは、静岡における布教の大きな支えになったことは想像に難くありません。

素六翁にとって教育とは、キリスト教精神を社会に体现するための手段でした。沼津中学校(現・沼津東高校)の創立に関わり初代校長を務めたほか、1895年には麻布尋常中学校(現・

麻布中学校・高等学校)を創立。さらに東洋英和学校(現・東洋英和女学院)の創設や運営にも深く携わりました。その信仰は教会の外での社会活動にも強く反映されており、東京キリスト教青年会(東京YMCA)の第5代会長を務めるなど、青年の育成に心血を注ぎました。

記念館を辞した我々は、次に日本基督教団沼津教会を訪ねました。そこでお目にかかった牧師のお話によれば、来年創立150周年を迎える同教会の創立記念日は、初代教会員である江原素六翁の「受洗日」としているとのこと。思わぬ事実、深い感銘を受けました。

驚きはそれだけではありません。後日、雑誌『信徒の友』4月号の「日ごとの糧」を開くと、静岡県下の教会が紹介されていました。なんと沼津教会の紹介記事が掲載されていたのは4月7日の欄。まさに我々が沼津教会を訪ねたその日だったのです。偶然とはいえ、素六翁が引き寄せた不思議な「縁」を感じずにはいられない旅となりました。(了)



“To acknowledge the duty that accompanies every right”